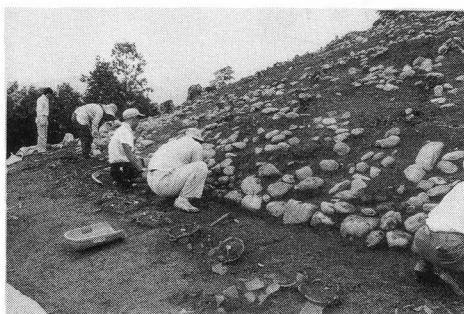




第1図 私市円山古墳の位置



第2図 空中写真



第3図 墳丘の調査



第4図 墳丘

## 私市円山古墳

はじめに 私市円山古墳は、京都府綾部市私市町円山に所在する。古墳は、京都府北部最大の河川である由良川中流域に形成された福知山盆地の中央部に位置し、盆地に向かって張り出す丘陵先端部の頂部に築造されている。墳頂部の標高は94m、丘陵の南に広がる平地部とは約70mの比高差を測ることから、古墳からの眺望は非常に良好である。

昭和62年、当調査研究センターは日本道路公団の依頼を受け、近畿自動車道舞鶴線(現敦賀線)建設に先立ち、予定路線内に所在する円山城館跡(私市円山古墳)の発掘調査を実施した。調査の結果、城館に関連する遺構は存在せず、丘陵頂部は造り出しを有する古墳時代中期の大型円墳(私市円山古墳)であることが判明した。翌昭和63年、本格的な調査を実施し、墳頂部から未盗掘の主体部3基を検出した。また、墳頂上では鎌倉時代の経塚(私市円山経塚)も検出している。

造り出しをもつ大円墳 私市円山古墳の形態は、造り出しを有する大型円墳である。墳丘の規模は、円丘部直径71m、造り出し部の長さ10m・幅18m、墳丘高10m、造り出し部を含める全長は81mを測り、京都府内では最大規模の円墳である。

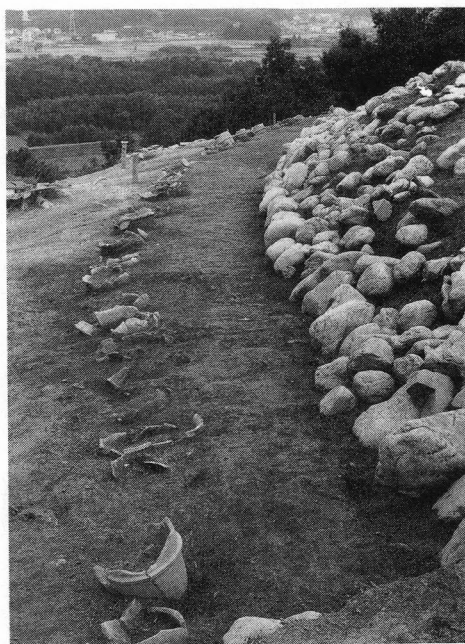
墳丘は、丘陵頂から東南方向に下降する尾根筋を中心に地山を削り出すとともに、一部に盛土を併用して墳丘整形を行っている。造り出しは、墳丘の東南部尾根筋上の南側、斜面変換線に接して造られ、多分に南の平地側を意識した配置が読み取れる。

**段築・葺石・埴輪** 墳丘は、2か所に平坦部を有する三段築成であり、下から一段目の斜面を除く二・三段目と造り出しの斜面では、由良川の河原石を使用した葺石を施している。墳丘を取り巻く2段の平坦面と造り出し部から、原位置を保つ円筒埴輪列(朝顔形埴輪を含む)を検出した。また、造り出し部では家形・短甲形・盾形等の形象埴輪片の出土もみられた。

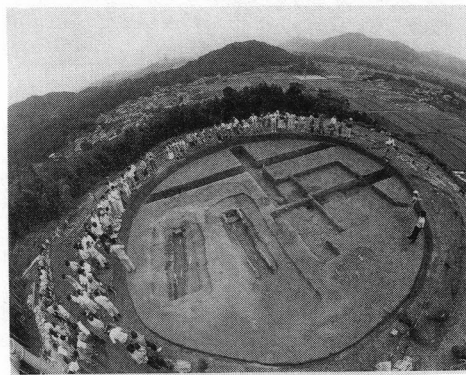
**3基の埋葬施設** 墳頂部から、遺存状況の良好な3基の主体部を検出した。墳丘の中央に第2主体部、北に第1主体部、西に第3主体部を配している。

第1・2主体部は、主軸を東西にとる2段墓壇内に組合式木棺を置き、粘土で被覆する構造をもつ。棺の規模は、第1主体部が全長3.8m・幅0.6m・深さ0.5m、第2主体部は全長4.0m・幅0.6m・深さ0.6mを測る。

第1主体部の副葬品の多くは棺の西側にまとまり、甲冑・鉄鏃・胡籙・帯金具・鏡・玉類のほか、東側から鉄剣が出土した。第2主体部の副葬品は、棺内東側から鉄刀と鏡、西側から甲冑・鉄刀・鉄鏃・玉類・堅櫛、棺外西側からミニチュアの鉄製農工具が出土した。



第5図 埴輪列と葺石



第6図 墳頂部



第7図 第1・2主体部



第8図 第2主体部の精査



第9図 鏡・玉・胡籛



第10図 第2主体部

第3主体部は主軸を南北にとる小規模な主体部であり、全長2.4m・幅1.0m・深さ0.03mを測る。棺内北側にミニチュア農工具(実物を含む)、南側で鉄鏝が出土した。

**甲冑** 第1主体部出土の甲冑には、三角板革綴衝角付冑、三角板革綴短甲、頸甲、肩甲、革製草摺がある。被葬者の足元に置かれ、短甲の前胴を西に、後胴を被葬者側に向けていた。冑は短甲内に収め、頸甲・肩甲は装着状態にあり、草摺は短甲に接して被葬者側に置かれていた。

第2主体部出土の甲冑には、三角板革綴衝角付冑、三角板革綴短甲、鏝がある。第1主体部と同様に被葬者の足元に置かれていたが、短甲は横位置で、前胴を北側に向けていた。冑と鏝は短甲内に収められていた。

**胡籛** 胡籛は、金具部分が第2主体部棺内の西南隅から、鉄鏝群とともに検出された。胡籛金具は、吊手飾金具1対、コ字形金具2点、付属の帯金具(鉸具・方形金具)である。吊手飾金具・コ字形金具は鉄地金銅張り、帯金具は金銅製である。吊手飾金具の表面には、蹴彫りの波状列点文が施され、裏面には布地が付着していた。胡籛の出土例は少なく、出土状況が良好な資料価値が高いものである。

**その他の出土品** 第1主体部出土鏡(鏡式不明)は、鏡面を上に向け、甲冑・

胡籙とともに被葬者の足元付近に置かれていた。面径は7.8cmを測る。

第2主体部出土鏡(振文鏡)は、鏡背を上に向け刀子とともに、被葬者の胸部右側から出土した。面径は9.1cmを測る。

第1主体部では鉄剣、第2主体部では鉄刀が、被葬者の両脇に置かれていた。

玉類は、ともに被葬者の足元付近に集中し、第2主体部のみ頭部付近からも出土している。

第2・3主体部出土の鉄製農工具(斧・鍬先・鎌・鉋・刀子等)は、実物を忠実に縮小したものであり、柄の木質も残っていた。

**福知山盆地の王墓** 私市円山古墳は、墳形・規模・立地・副葬品等、福知山盆地内にある古墳の中では、ひときわ傑出した内容を誇る首長墓である。築造年代は、副葬品・埴輪の特徴などから古墳時代中期中葉、5世紀中ばに求めることができる。

私市円山古墳に先行する首長墓としては、造り出し付き方墳の綾部市菖蒲塚・聖塚両古墳が、後出する首長墓としては、方墳の福知山市妙見1号墳がそれぞれ知られている。いずれも段築・埴輪・葺石からなる外表3要素を完備する畿内系の首長墓という点において、私市円山古墳と共通するが、墳形・立地条件等の点において差異を示している。その意味するところについては、諸説あるが、十分解明されていないのが現状である。

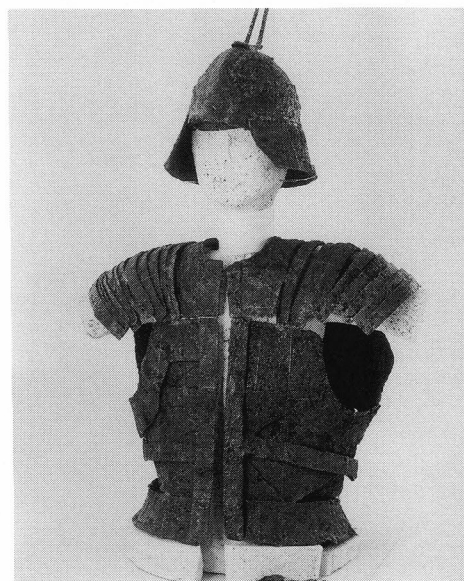
(竹原一彦=当センター)



第11図 第3主体部



第12図 現地説明会



第13図 甲冑